

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立日本橋小 学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を書く力の育成には一定の成果が見られたが、読書活動の継続的な促進が必要。 情報の扱い方に関する力（要旨の把握・要約）が依然として課題。 漢字習得の個人差や、支援児童への指導の工夫が求められる。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の正答率が全国平均をわずかに上回るが、記述式問題の得点率が低め（6年生で71.6%、全国は53.8%）。 「情報の扱い方」は大きく改善（6年生で94.9%）しているが、第4学年では課題が残る。 読解力（読むこと）は全体的に高得点だが、表現力（思考・判断・表現）のばらつきが見られる。
算数・数学	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用により学習意欲は向上したが、論理的思考力・説明力の育成には継続的な工夫が必要。 少数指導の質の向上と、家庭学習との連携が課題。 活用問題への対応力が十分に育っていない。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「活用」問題の得点率が低め（6年生で67.1%、全国は59.3%）。 「記述式」問題の得点率が特に低い（6年生で46.2%、全国は16.6%）。 「データの活用」領域で全国平均を下回る傾向があり、統計的思考の育成が課題。
社会	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の理解度は向上傾向にあるが、課題解決型授業の継続的な改善が必要。 地域資源を活用した学びの充実は進んでいるが、実体験との結びつきの強化が求められる。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「伝統や文化、先人の働き」の得点率が低め（6年生で60.1%、全国は44.3%）。 「記述式」問題の得点率がやや低い（6年生で76.3%、全国は57.9%）。 「思考・判断・表現」の観点で全国平均を上回っているが、地域の特色理解にばらつき。
理科	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動や校外学習の充実により意欲は高まったが、論理的思考力の育成にはさらなる工夫が必要。 「物質・エネルギー」「生命・地球」分野の指導改善が課題。 自然事象への関心を高める導入や体験活動の充実が必要。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「物質・エネルギー」領域で全国平均をわずかに上回るが、記述式問題の得点率が低い（6年生で76.9%、全国は63.6%）。 「思考・判断・表現」の観点で全国平均を上回るが、論理的な説明力の育成が課題。 「生命・地球」領域は比較的安定しているが、体験的な学習の充実が必要。
英語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 書くことへの苦手意識は軽減されつつあるが、表現活動の工夫が引き続き必要。 ALTやオンライン英会話の活用は効果的だったが、興味関心の差への対応が課題。 ローマ字の定着や英語への抵抗感の軽減が求められる。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体的に高得点（6年生平均：91.2%）だが、「書くこと」や「記述式」問題で個人差が大きい。 「聞くこと」「読むこと」は高得点だが、「活用」場面での表現力に課題。

体力向上	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外遊びや放課後活動の増加により運動機会は確保されたが、体力向上のための授業内容の工夫が必要。 ・「投力」「握力」「柔軟性」などの基礎体力向上に向けた継続的な取組が課題。 ・個人差への対応や、体幹・筋力を高める活動の充実が求められる。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・握力・立ち幅とび・ボール投げは全学年群で共通の課題 → 筋力・跳躍力・投力の育成が必要。 ・上体起こし・反復横とびも継続的な課題 → 体幹・敏捷性の強化が重要。 ・高学年では50m 走・長座体前屈・体重など、より多様な項目で課題が見られるため、運動習慣や生活習慣の見直しも視野に入れる。
------	---

2 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」「情報の扱い方」の正答率を区平均以上にする。 ・漢字習得率を学年平均90%以上に引き上げる。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」「話すこと・聞くこと」の表現力を高め、記述式問題の正答率を全国平均以上にする。 ・第4学年の「情報の扱い方」の正答率を区平均以上にする。 ・表現力のばらつきを減らし、全学年で思考・判断・表現の観点で安定した得点を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文・説明文の読解で、叙述を根拠にした読み取り活動を充実。 ・要約・要旨把握の練習を週1回実施（新聞記事や教科書文を活用）。 ・漢字練習プリントを個別に配布し、反復練習と活用場面を設ける。 ・ミライシードを活用した個別演習でつまづきに対応。
算数・数学	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「数と計算」「図形」領域の基礎力定着率を90%以上にする。 ・活用問題の正答率を区平均以上にする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「活用」問題の正答率を全国平均以上に引き上げる。 ・記述式問題への対応力を育成し、説明力を高める。 ・「データの活用」領域の正答率を区平均以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・操作活動（ブロック・図形カード）を活用した視覚的理解の授業。 ・課題解決型授業を週1回実施し、活用力・説明力を育成。 ・少人数指導で個別支援を強化し、論理的思考力を育てる。 ・ICT 機器（タブレット・電子黒板）を活用した演習を定着。
社 会	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の様子」「生産と販売」などの基礎知識の定着率を区平均以上にする。 ・単元導入で「問いを立てる」活動を全単元で実施。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「伝統や文化」「思考・判断・表現」の観点で記述式問題の正答率を全国平均以上にする。 ・地域の特色理解を深め資料をもとに考えをまとめる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の地図や写真を使った導入活動で興味関心を喚起。 ・地域人材との交流（ゲストティーチャー）を年間3回以上実施。 ・単元導入で「問いを立てる」活動を全単元に導入。 ・地域資源を活用したフィールドワークや調査活動を実施。 ・資料をもとに考えをまとめる活動を週1回取り入れる。
理 科	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「物質・エネルギー」「生命・地球」の基礎知識定着率を区平均以上にする。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思考・判断・表現」の観点で記述式問題の正答率を全国平均以上にする。 ・実験結果を文章で説明する力を育成する。 ・校外学習や自然観察を通じて、体験的な学びを年間3回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察を週1回以上実施し、丁寧な記録と考察を促す。 ・授業構成を「予想→観察→結果→考察」の流れで統一。 ・校外学習（公園・博物館）で自然事象への関心を高める。 ・話し合い活動を導入し、論理的思考力を育成。 ・実験器具の扱い方や安全指導を徹底し、主

		体的な活動を促進。
英 語	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「読むこと」の正答率を区平均以上にする。 ・ローマ字の定着率を90%以上にする。 ・ALTとの活動を週1回以上実施し、表現活動への抵抗感を軽減。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」「話すこと・聞くこと」の表現力を高め、記述式問題の正答率を全国平均以上にする。 ・表現活動への抵抗感を軽減し、個人差を縮小する。 ・実践的な活動（ALT・オンライン英会話）を週1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとの活動を週1回以上実施し、聞く・話す力を育成。 ・掲示物や音声教材を活用し、興味関心を高める。 ・ローマ字練習プリントを反復使用し、定着を図る。 ・少人数での発表活動を段階的に導入し、表現力を育成。 ・オンライン英会話を活用し、実践的な英語使用の場を提供。
体力向上	<p>【4月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都体力調査の主要項目で都平均以上の得点を目指す。 ・握力・立ち幅とび・ボール投げの平均Tスコアを50以上にする。 ・週1回以上の体幹・柔軟性トレーニングを体育授業に組み込む。 <p>【10月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校平均Tスコアを50以上に引き上げる。 ・体育授業で週1回以上、握力向上を意識した活動を実施（例：ゴムボール握り、雑巾絞り、鉄棒活動など）。 ・握力に課題のある児童には、段階的な個別支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーショントレーニング（リズム・バランス・反応など）を授業に組み込む。 ・体幹・柔軟性を高める運動を準備運動に定着させる。 ・個別支援・グループ編成の工夫 <p>運動技能に応じたグループ分けを行い、児童が安心して取り組める環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業での継続的な活動で週1回以上、握力向上を意識した運動を授業に組み込む。雑巾絞り（手首・指の力の強化）鉄棒活動（ぶら下がり・懸垂など） ・準備運動の中に「握力強化メニュー」を定着させる。指先を使った運動（指ジャンケン、指回し）手首のストレッチと筋トレ（手首回し、手首押し合い）

個別最適な学びと協働的な学びの充実

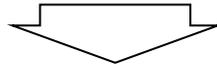
取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ミライシードの活用により、児童一人ひとりのつまずきに応じた問題演習を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・少人数指導の充実により、児童が自分で課題をもち、主体的に取り組む姿勢を育成する。ICT機器（タブレット・電子黒板）の活用率100%**を目指し、個別学習と協働学習の両面で活用を推進する。 ・教員間で授業を見合い、指導方法を共有することで、児童の思考力・判断力・表現力を高める授業づくりを行っていく。
----	---

探究的な学びの充実

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科で「問いの予想と振り返り」を取り入れた授業改善を行い、児童が課題を自分事として捉え、主体的に学ぶ姿勢を育成していく。 ・地域人材・資源との出会いを演出し、社会的事象を実感をもって捉える学びを実現させる。 ・地域資源を活用した観察・調査活動を通じて、課題解決型の深い学びを促進する。 ・理科では予想・結論を話し合う場を充実させ、論理的思考力の育成を図る。
----	---

読解力の育成

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の物語単元で、叙述を基に登場人物の気持ちや場面の様子を捉える力の育成を図る。 ・文章で表現する機会を増やし、児童が意欲的に書く力を育成する。 ・学級文庫・学校図書館・電子書籍の活用により、読書活動を促進し、読解力の基盤を強化する。 ・情報の扱い方に関する事項の指導強化により、要旨を捉えたり要約したりする力の向上を目指す。
----	---



3 取組結果の検証

	令和7年度の取組の成果	令和7年度の取組の課題と解決策
国語		
算数・数学		
社会		
理科		
英語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成

成果と課題